

方針

2016年度末に目指す姿

ミッション①
：世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」の創出

将来像
：中之島公園、中之島GATEにこれまでにないシンボリックな拠点をつくり、国内外から注目される

- [中之島公園]
賑わいが定着し、府民・市民のさらなる憩いの場となると共に、インバウンドでも注目を浴びる
- [中之島GATE]
フィッシャーマンズマーケット及び周辺エリアでの船のある風景を実現する
- 水都大阪パートナーズのコーディネートを通じて、企業・市民の水辺活用が進むとともに、民間のエリアマネジメントを具体化する



ミッション②
：国内外から観光客が訪れる「水と光のテーマパークの実現」

将来像
：水の回廊をめぐる拠点が多数できていると共に、水の回廊を船で巡るクルーズ商品・観光商品化により、国内外から観光客が訪れる

- 川に向かい水辺を生かしたまちができる
- 定期船や観光クルーズ等の船が川を行き交っている
- 美しい水辺景観が広がり光で輝いていると共に、ナイトクルーズ等も定着
- 情報発信、プロモーション等、水都大阪全体の魅力が向上し、国内外に水都大阪が知られる



H28年度 取り組み方針(社会実験から定着へ)

中之島の東西のシンボル拠点の形成：中之島公園・周辺及び、中之島GATE

- 中之島公園：水辺のまちあそびを通じた賑わいの定常化など
 1. 公共空間活用の継続的活用「水辺のまちあそび(6/1~10/30)」
 - ・中之島オープンテラスの実施
 2. 『水都大阪フェス2016』の開催(9/11~10/16)
 - ・大阪クラシックと連携したクルーズをはじめ淀川エリアとも連携し、水辺の賑わいを集積
 3. 持続できるような賑わいの総合プロデュースと検証
 - ・中之島周辺エリアの事業者との協力体制の推進
- 中之島GATE：中之島漁港を核にした賑わい創出・誘客の実施等
 - 海の駅や、インナーバイマーケットリゾートに向けた将来像の検証
 - 1. 中之島漁港等/社会実験の継続と施設リニューアル(stage2)
 - 2. 「福島区の海の駅(来春開設)」等、周辺エリアとの連携



水の回廊「利活用の手続き簡便化や民間投資の促進」+舟運活性化「クルーズ企画や来訪者への環境整備」

- 水の回廊：主要拠点の利活用への継続支援
 1. 本町橋BASE：H30年度下水管渠、公園復旧に合わせた賑わい拠点化
 - ・利活用に向けた事業者ヒアリング実施
 - ・利活用のあり方等地元関係者との継続的協議等
 2. 大阪城港周辺：大阪城PMOとのイベント連携(含む、今後の河川準則特区取得を想定した河川区域の社会実験の事業協力などと共に、小型船の係留社会実験)
- 舟運活性化：クルーズ企画や来訪者への環境整備
 1. 八軒家浜ターミナル化への取り組み
 - ・船着場の情報発信機能の強化(クルーズ案内板等)
 - ・企画クルーズの運航
 - ・水陸の連携
 - ・船の発着・待機機能の強化
 2. 船が行き交う風景づくり
 - ・小型船の活用/係留社会実験の継続
 - ・中・大型船の活用/ナイトクルーズ等新カテゴリ拡充
 - ・水上イベント等の開催



水都大阪の魅力発信、プロモーション

- 質の追求：ブランディング化+量への対応(インバウンドの水辺の取込)
 1. 水都大阪のイメージ構築を図る PRコンテンツの収集・作成
 - ・静止画1,000枚、動画300本の収集撮画像提供等拡販への仕組等
 2. 国内外メディアへの水都大阪のプロモーションへの継続
 - ・首都圏、中部圏等への情報発信(大阪観光Walker、Time out Kyoto)
 3. 大阪観光局との連携強化(東京等エリアでの情報発信)
 4. 水都大阪サポーターの養成と活用
 - ・水都大阪の情報・楽しみ方の発信と水都大阪フェス等のイベント活動サポート
 5. 留学生ネットワークと共同作成する情報発信
 - ・SNS、ブログ等での多言語情報発信や多言語化マップ共同作成等



水都大阪の推進体制(推進会議+パートナーズ+オーソリティ)

【成果】

- 全国初の官民推進体制の構築(経済界、府市都市魅力戦略の一体推進)
- 国内外からの評価(全国の行政機関、民間事業者等視察など、水都大阪を発信)
- 公共空間活用の事業モデル(社会実験からの展開)

【課題】

- 民間投資の内容や規模に応じた事業期間の確保 及び、呼び込む手法の開発
- 関係機関との連携や役割分担等・観光局等とプロモーションの連携強化

3年間の取り組み結果と課題

中之島公園と中之島GATE

- 中之島公園(市役所前+中之島公園等) <成果>
 - 水辺のまち遊びによる賑わいの定着(夏~秋風物詩)
 - 持続可能な賑わいの総合プロデュースの取り組み
 - 水陸をつなぐ舟運と連動した賑わいづくり
 <課題>
 - 持続可能な賑わいを創出するための関係者ワーキング
- 中之島GATE(中之島漁港、食堂、その他) <成果>
 - ポテンシャルの低い水辺遊休地の段階的事業の実現
 - 開業後来場者数：約23万人、3.4億円の売上等
 - 国内外への発信(新聞7紙、テレビ等30番組等)
 <課題>
 - 用地活用の手法の幅広い選択肢による検討

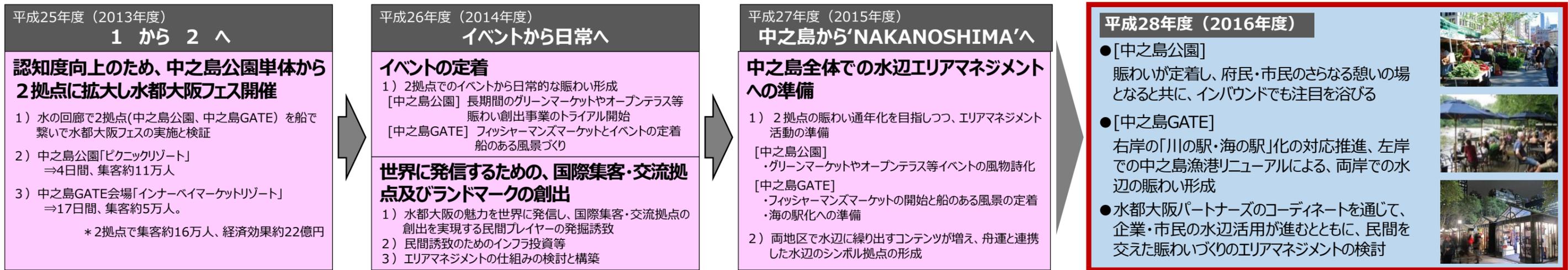
水の回廊と舟運の活性化

- 水の回廊の活性化 <成果>
 - 本町橋社会実験(地先利用)
 - 民間事業者誘致のための連携(中之島GATEノース/福島区側(海の駅/来春))、大正リバービレッジ
 - にぎわい化トライアル(湊町(BBQ)、中之島バンク(水上レストラン))
 <課題>
 - 地先利用促進(ニーズはあるが協議会設立が課題)
- 舟運の活性化 <成果>
 - 舟運活性化ワーキング(H26年~)設立
 - 社会実験により活性化の実施検証
 - 新規クルーズ増加。ナイトクルーズ等定番商品化
 <課題>
 - 更なる活性化には舟運ターミナルの創出が重要
 - ターミナル近隣での係留設備整備による増船対応

水都大阪の魅力発信、プロモーション

- <成果>
 - 国内外メディアへの掲載(国内62誌、国外5誌)
 - WEB/SNS等の活用
 - ・国内外での口コミ拡販を狙ったスマホの対応した発信
 - 年間プログラム等の認知
 - ・子供向け舟運イベント、ナイトクルーズ等認知向上
 - オープンテラス、中之島漁港等定常イベントとして認知
 <課題>
 - 水都大阪のブランディングの強化
 - ・水都大阪の発信(夜景や船の行き交う風景など)
 - インバウンド取り込みのプロモーション

将来像：中之島公園、中之島GATEにこれまでにないシンボリックな拠点をつくり、国内外から注目される



1. 中之島公園：水辺のまちあそびを通じ、賑わいの定常化とエリアマネジメント活動についての公共空間利用に向けた検証

H28年度の取り組み

◆公共空間の継続的活用「水辺のまちあそび6/1（水）～10/30（日）の実施」

①中之島オープンテラス：舟運連携及び、月毎にかわる水際イベントの実施等

②水都大阪フェス2016（9/11（日）～10/16（日））

- 水辺の賑わいの集積
民間事業者による各種水辺プログラムを日常的に展開
- 拠点と拠点をつなげる舟運と連動した賑わいづくり
大阪クラシックと連携したクルーズをはじめ、船を使った拠点の魅力発信と拠点と拠点をつなぐクルーズの実施。さらに淀川エリアとの連携拡大
- 水辺の魅力を伝えるプロモーション
水の回廊とその周辺の魅力を盛り込んだパンフレットの作成
同時期に開催されるイベントと合同制作した広報展開

◆持続可能な賑わいの総合プロデュースと検証

- 中之島周辺エリアとの事業者協力体制の推進
水辺のまちあそびを通じたトライアル事業開始
施設前地先利用やインフォメーション・サイクル・カフェ(※)を実施
(※)水都及び周辺地域の情報提供+飲食の移動ワゴンサービス等
- 公共空間の利用促進につながる取り組み
ヨガ利用者・団体の窓口一本化 社会実験（予約受付、調整）



中之島オープンテラス



くろそうの島



アウトドアヨガ祭り



地先利用



ナイトクルーズ



連携クルーズ

H25年度からの取り組み成果と課題

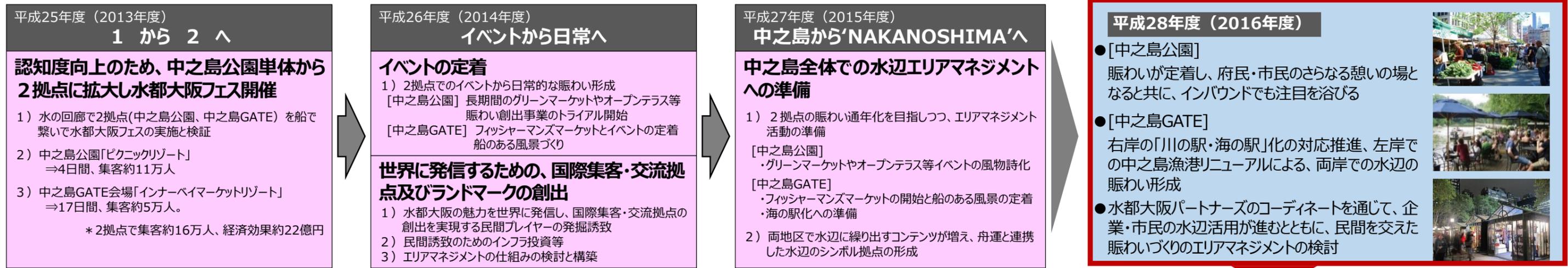
〈成果〉

- ・水辺のまちあそびを通じた賑わいの定着化を実現
春から秋に開設する中之島オープンテラスや秋の水都大阪フェスとして連続週末イベントの風物詩化
- ・持続可能な賑わいの総合プロデュースの取組み
公共空間の利用促進として窓口の一元化や事業協力エリアとして社会実験開始
- ・水陸をつなぐ舟運と連動した賑わいづくり
各拠点の賑わいを船でつなげる舟運船の企画

〈課題〉

- ・公共空間利用促進のため窓口一元化の継続や持続可能な賑わいを創出するための関係者ワーキングの仕組みづくり

将来像：中之島公園、中之島GATEにこれまでにないシンボリックな拠点をつくり、国内外から注目される



2. 中之島GATE：中之島漁港を核とした賑わい創出・誘客事業の実施
クルーザーを呼び込むための「海の駅」化に向けた準備、恒久施設等インナーベイマーケットリゾートに向けた将来像の検証



中之島漁港（上：いけすテント・下：夜景）



中之島GATE・ノース～海の駅開設にむけてのイベント（海の日：H28.07.18）

H28年度の取り組み

- ◆ **社会実験の継続実施・施設リニューアルの支援**
 - ・当初の実施期間(～H28年度)における事業性の検証と、リニューアル後の事業性の検討支援を実施。これまでの営業期間における課題整理と改善策を提案
 - ・当該敷地の利用条件、及び事業計画の前提条件の洗出しを行い、H29年度末までの期間延長と社会実験継続の環境整備を実現
 - ・次年度以降の中之島漁港の事業継続環境を整備
 - ・上記項目実現に要する、各種行政協議、関係者調整、工程管理支援を実施
- ◆ **H32年度～ 事業スキームの検証・提案**
 - ・リニューアルオープン後の営業状況を踏まえ、企業ヒアリング等実施予定
- ◆ **福島区との「川の駅・海の駅」を含めた連携**
 - ・H29年3月に予定されている福島区の「川の駅・海の駅」開設に合わせ、中之島漁港との連動企画を検討
 - ・中之島漁港と福島区「川の駅・海の駅」の双方事業者の連携による、海の駅活用計画の検討
 - ・中之島漁港の船着場改修検討も併せた、両岸での水辺の賑わい強化検討

H25年度からの取り組み成果と課題

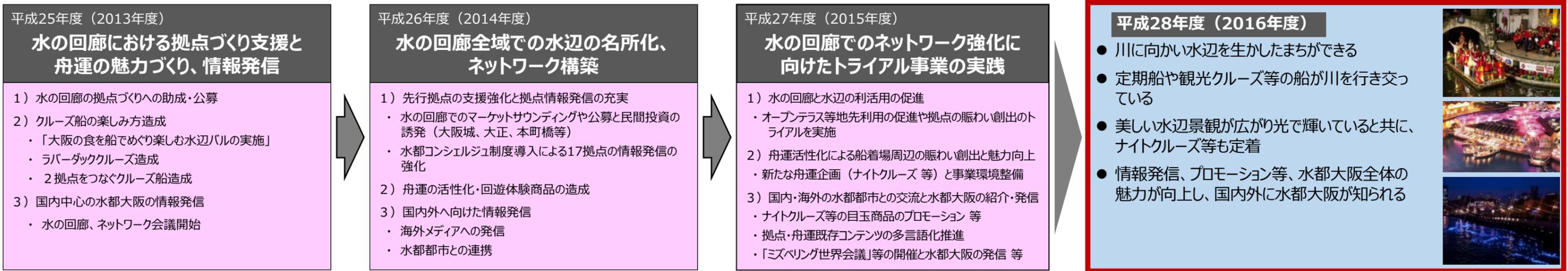
〈成果〉

- ◆ **開発ポテンシャルの低い水辺遊休地の段階的事業化の実現**
 - ・「イベント実施」から「暫定利用（複数年度に渡る敷地利用）」の実現による事業ポテンシャルの可視化
 - ・インフラ投資と利用料での回収による民間企業とのリスク分担の仕組みの検証
- ◆ **中之島GATEでの水辺の賑わい創出**
 - ・H27年2月の開業以来、当初目標（1万人/月）を大きく上回る1.3万人/月(延べ228,000人)の来場者数を実現。(H27年2月～H28年6月末)
 - ・上記期間累計で、約3.4億円の売り上げを実現
 - ・海と川の結節点を活かした水陸セットでの舟運事業の可能性検討を実施
- ◆ **日本全国・世界への発信**
 - ・H27年2月の開業以来、新聞7紙、テレビ・ラジオ15局30番組、国外の旅行雑誌及びマガジンへの掲載等、パートナーズ事業において最大のメディア露出

〈課題〉

- ・事業計画実現のための条件整理
- ・エリアの将来ビジョンを含め、活用自由度を高める制度設計の検討を行うと同時に、企画内容を実現する事業者誘致も担える、官民の橋渡し役としての中間事業組織の必要性
- ・用地活用の手法として、「売却による活用」、「売却せず準則特区化で活用」など、幅広い選択肢の検討

将来像：水の回廊をめぐる拠点が多数できていると共に、水の回廊を船で巡るクルーズ商品・観光商品化により、国内外から観光客が訪れる



1. 水の回廊：公共空間利用の手続きの簡便化や民間投資の更なる促進が可能な新しいスキームの構築



天神祭とんごん船の迎入れ（本町橋BASE）



地域の魅力発信展示（本町橋BASE）

H28年度の取り組み

◆拠点利活用（社会実験）と継続支援

※都市・地域再生等利用区域指定を目標とする下記活動

【本町橋BASE】

- ①H30年度本町幹線下水管渠工事後の公園復旧工事に併せて、賑わい拠点づくりを目指す。
 ・「本町橋・水辺の賑わい拠点づくり検討会（昨年12月設置）」において、公園復旧にあわせて、本町橋BASEのあり方について、地元関係者との協議を実施（2回実施済）
 ・併せて、事業者ヒアリングを実施済→H29年度事業者公募に向けた関係機関協議を開始。
 ・上記を踏まえ賑わい拠点づくりへの公園復旧や船着場周辺の基盤整備の設計要件整理(上期)

【大阪城港周辺:大阪城港周辺活性化検討委員会】

- 大阪城PMO事業者も参加、新体制で当該エリアの賑わい形成
 ・9月～10月にかけて、大阪城PMO主催のイベントと中之島公園水都大阪フェスと連携。
 ・上記イベント中に河川区域にて社会実験（例：キッチンカーとテラスなど）等を協力支援。
 ・今後の大阪城港周辺の河川準則特区を目指す



H25年度からの取り組み成果と課題

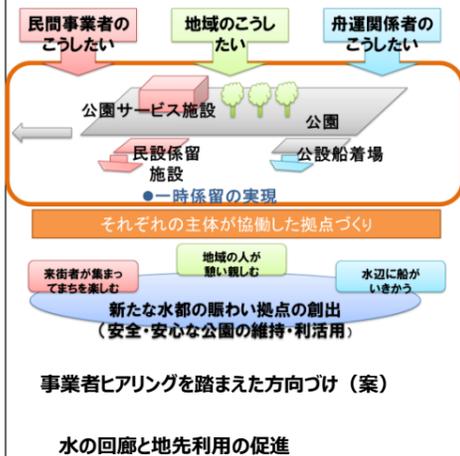
- ◆水の回廊での賑わいの拠点化の進捗～17拠点の一部にとどまる

〈成果〉

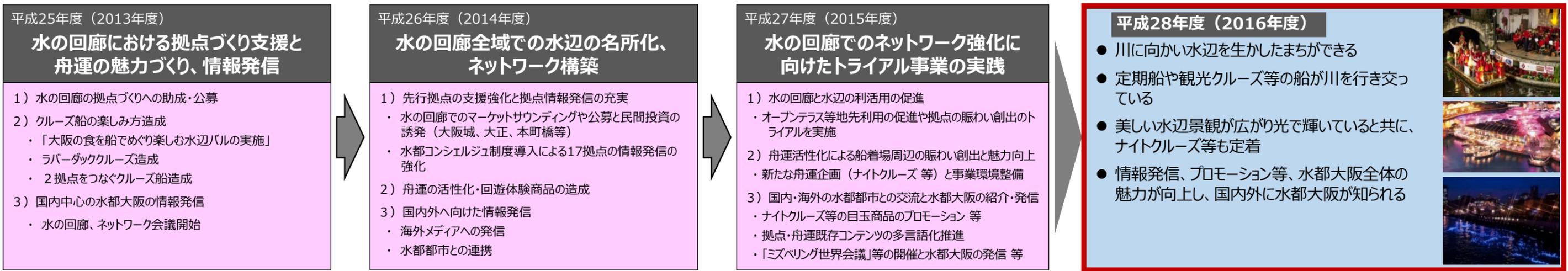
- H27年度社会実験(本町橋)の地元先利用
 本町橋エリア 社会実験中
- 民間事業者の誘致のための連携（賑わい施設と係留）
 ①「中之島GATEノース/福島区側（海の駅）」
 ②「大正リバービレッジ」
 【賑わい化にむけてのトライアル】
 ①湊町（BBQ等）
 ②中之島バンク（水上レストラン）等

〈課題〉

- 地元協議会設立が前提のため、協議に時間がかかり掘り起こしたニーズを活かせていない
- 都市再生推進法人の取得を目指したものの、実現できていない



将来像：水の回廊をめぐる拠点が多数できていると共に、水の回廊を船で巡るクルーズ商品・観光商品化により、国内外から観光客が訪れる



2. 舟運活性化：水の回廊を巡るクルーズや観光商品の創出により、国内外から観光客が訪れる環境の整備

H28年度の取り組み

◆八軒家浜ターミナル化の取り組み
 <ターミナル化社会実験の実施>

- ①船着場の情報発信機能強化
 クルーズ案内板・チケット販売員等を設置し分かり易い情報発信を実施
 - ②企画クルーズの運航
 （秋のフェス期間連携クルーズ、クリスマス時期のクルーズ等）
 - ③水陸の連携
 陸側に、賑わいを形成し、クルーズとの連携を実施
 - ④船の発着・待機機能強化
 期間限定で企画参加する多くの船が発着・待機する体制のトライアル実施
- ①～④の取り組みにより八軒家浜に人や船が集まる風景を作り出す

◆船が行き交う風景づくり

- ①小型船の活用
 2拠点(大阪城HB,中之島バンク)で引き続き係留社会実験を実施
 陸側飲食施設等との柔軟な運用のクルーズを実施
- ②中型・大型船の活用
 ナイトクルーズ等の新カテゴリーを更に拡大、中型・大型船も活用
- ③水上イベントの開催
 水辺の賑わいと連動した水上パレード等の実施

H25年度からの取り組み成果と課題

〈成果〉

舟運活性化ワーキング(H26年～)において課題を共有し、社会実験により対応策を検証

〈課題〉

- ・新規クルーズ企画が多く出来たが、船の行き交う数を実感として増えたとはいいがたい。1拠点への集中化による効果的な取り組みが必要
- ・新船建造の動きが出てきつつある中、今後、船の係留場の整備が必要



ナイトクルーズ



堂島川西部 新規クルーズ運航

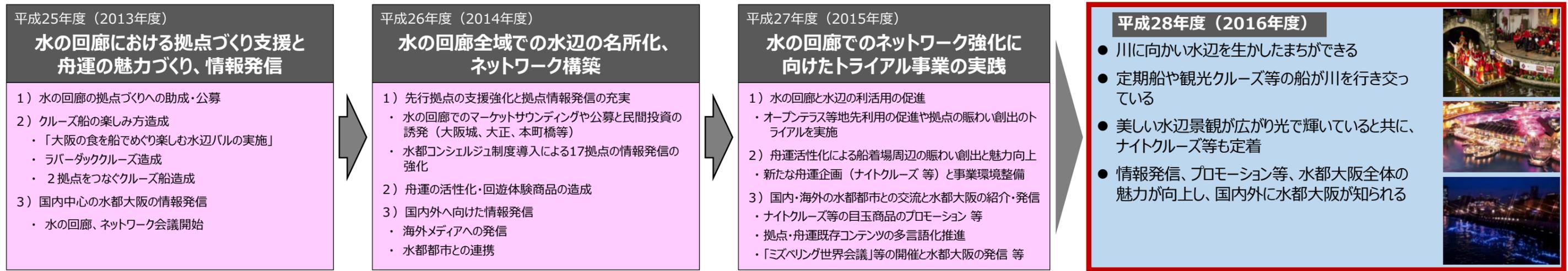


係留社会実験に伴う小型船定期運航



レストランクルーズ運航

将来像：水の回廊をめぐる拠点が多数できていると共に、水の回廊を船で巡るクルーズ商品・観光商品化により、国内外から観光客が訪れる



3. プロモーション：質の追求（水都大阪のブランディング化）+量の対応（インバウンドの水辺への取り込み）

H28年度の取り組み

◆水都大阪イメージ構築のためのPRコンテンツの収集・作成

- ⇒水都大阪の静止画1,000枚、動画300本の収集
- ・水都関係者が作成するポスター・イベントフライヤーへの画像提供やHP上で画像を提供する仕組みの構築
- ・動画による水都大阪の魅力発信。4月以降、Youtube、Facebookで随時紹介
- ・定期的に使用できる「ぐるっとマップ」等の作成への活用



◆国内外メディアに対する水都大阪のプロモーションの継続

- ・インバウンド向け京都観光ガイドブック「Time Out Kyoto」への中之島周辺をメインとした水都大阪情報の掲載
- ・首都圏、中部圏で販売される「大阪観光Walker」への水都大阪情報の掲載



◆大阪観光局との連携強化

- ・水都大阪情報が掲載された「Time Out Tokyo」「Time Out Kyoto」のインバウンド向け配布（大阪観光局ビズターズインフォメーションセンター（梅田・難波）の活用）
- ・東京等他エリアでの情報発信での協力。コンテンツや素材の共有

◆水都大阪サポーターの養成と活用

- ・情報発信手法の養成と府民市民目線での水都大阪の情報・楽しみ方の発信
- ・水都大阪フェスを中心としたイベント活動のサポート

◆留学生ネットワークと連携した情報発信

- ・SNS、ブログでの多言語化情報発信・多言語化マップ等の共同作成

H25年度からの取り組み成果と課題

《成果》

■国内外メディアへの掲載

- ・新しい大阪の魅力として国内外ガイドブック等（国内62誌・国外5誌）で水都大阪の情報発信

■WEB・SNS等の活用

- ・国内外での口コミ伝播をねらったスマホ（※）に対応した情報発信
 ※Instagram、Youtube、Facebook、Twitter
- ・QRコードを活用した舟運プログラム等の多言語化支援

■年間プログラム等の認知

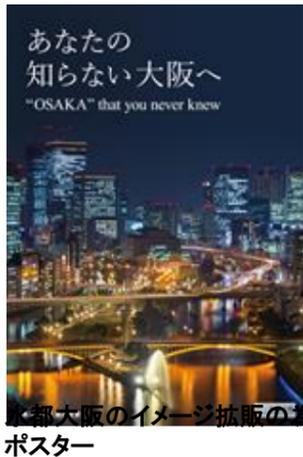
- ・子ども向け舟運イベントやナイトクルーズ等を通じた水都大阪の認知向上
- ・メディアへの継続的な働きかけにより、「水都大阪フェス」や「中之島オープンテラス」「中之島漁港」等が水辺の定常イベントとして認知

《課題》

■水都大阪のブランディングの強化

- ・水都大阪のイメージ発信（夜景や船の行き交う風景等）

■インバウンド取り込みのためのプロモーションの強化



水都大阪のイメージ拡販（大阪市交通局への協力）